第５講　平安時代Ⅰ

1　律令国家再建の努力

①長岡京・平安京への遷都⇒**桓武天皇**が大和国から山背国〔山城国〕へ

A　理由

あ　**政治の刷新**

新都への寺院移転を禁止し，仏教勢力の政治介入を排除。

い　従来の天武系にかわる天智系皇室の威勢を誇示

う　水陸交通の利便性

B　年表

784年　**長岡京（山背国）**遷都

☆**藤原種継（式家）**の進言。

785年　藤原種継暗殺事件

☆大伴氏・佐伯氏や皇太子の早良親王（桓武天皇の弟）を処罰。

794年　**平安京（山城国）**遷都

☆早良親王の怨霊を怖れ**和気清麻呂**の進言を採用。

805年　**徳政論争〔徳政相論〕**（○**藤原緒嗣（式家）**vs**菅野真道**●）

☆桓武天皇が「**軍事と造作〔蝦夷征討と平安京造営〕**」を中断。

---

②本格的な東北支配―蝦夷征討―

A　光仁朝

780年　**伊治呰麻呂の乱**

☆多賀城を陥れて焼き，按察使の紀広純を殺害。

B　**桓武朝**

789年～　征東大使紀古佐美の征討失敗

791年～　征夷大将軍大伴弟麻呂の征討失敗

797年～　**征夷大将軍坂上田村麻呂**の征討

☆蝦夷の族長**阿弖流為**らが帰順。

802年　坂上田村麻呂が北上川沿いに**胆沢城**を築く

☆**多賀城から鎮守府のみを移転。**

803年　胆沢城の北方に**志波城**を築く

805年　**徳政論争により征討中断**

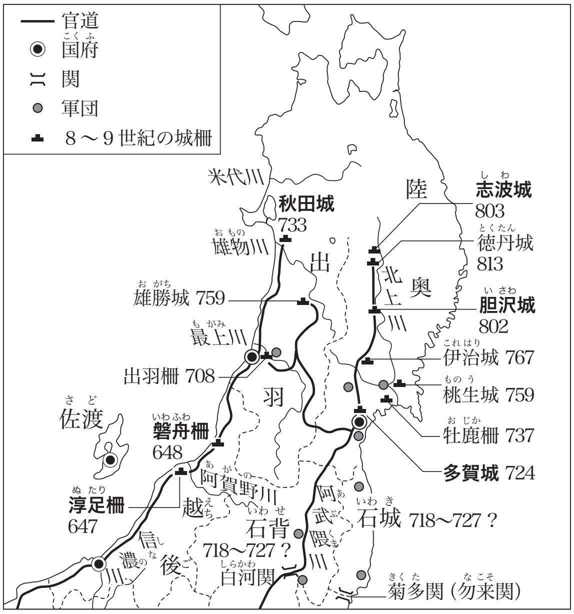
C　嵯峨朝

811年　征夷大将軍文室綿麻呂（ふんやのわたまろ）の征討

その後，９世紀後半には征討事業を完了したが，蝦夷と境（さかい）を接する東国には武芸を尊重する気風（きふう）が育った。

☆**俘囚（ふしゅう）**⇒朝廷に服属した蝦夷。

☆**柵戸（さくこ）**⇒関東などから城柵（じょうさく）の周辺に移住させられた農民。



東北地方の城柵

③現実に即した律令制の再建

A　桓武天皇の政治

長い在任期間のうちに天智系皇室の権威を確立。

あ　農民負担の軽減

雑徭の半減(60日⇒30日へ)，班田の励行(畿内は６年〔１比〕１班⇒12年〔１紀〕１班へ)，公出挙利率の軽減（５割⇒３割へ)，**徳政論争による「軍事と造作」の中断。**

い　地方政治の監督強化

国司交代時における**解由状**の授受(＝事務引継ぎ)にともなう紛争や不正を防止するため，**勘解由使**を設置。

☆増えていた定員外の国司や郡司も廃止。

う　軍団制の廃止(792年，**健児の制**)

大宰府管内・陸奥・出羽・佐渡を除き軍団制を廃止。**郡司の子弟**や有力農民の志願による少数精鋭の**健児**を採用し，国府の警備や国内の治安維持にあたらせた。

B　嵯峨天皇の政治

810年　**蔵人所**を設置

☆**蔵人頭**として**藤原冬嗣**・巨勢野足を任命，**藤原北家が台頭した。**

☆詔勅は太政官を通じて下すと手続きが煩雑で機密事項も漏れやすいため，**蔵人**を秘書官として速やかに政務を取り扱わせた。

薬子の変〔平城太上天皇の変〕

☆**藤原仲成・薬子**兄妹が，嵯峨天皇の兄にあたる**平城太上天皇**の重祚と平城京再遷都を画策するが失敗。**藤原式家は没落した。**

815年　新撰姓氏録の編纂

☆万多親王が，畿内1182氏の系譜を皇別・神別・諸蕃に分類。

816年　**検非違使**の設置

☆弾正台・衛門府・刑部省・左右京職の治安維持や裁判に関する業務を吸収し，平安京の警察にあたる。

820年　**弘仁格式**の編纂

823年　大宰府管内に**公営田**を設置

C　**令外官**の増設

内大臣，中納言，参議，左右近衛府，**【征夷大将軍，勘解由使，蔵人所，検非違使】**，押領使，追捕使，**人臣摂政**，**関白**，内覧など。

D　**三代格式**(さんだいきゃくしき)の編纂開始

弘仁格式（嵯峨天皇），**貞観**(じょうがん)**格式（清和天皇）**，**延喜**(えんぎ)**格式（醍醐天皇）**

☆格は10世紀半ばの『**類聚**(るいじゅう)**三代格**』で分類。式は『延喜式』のみ現存。

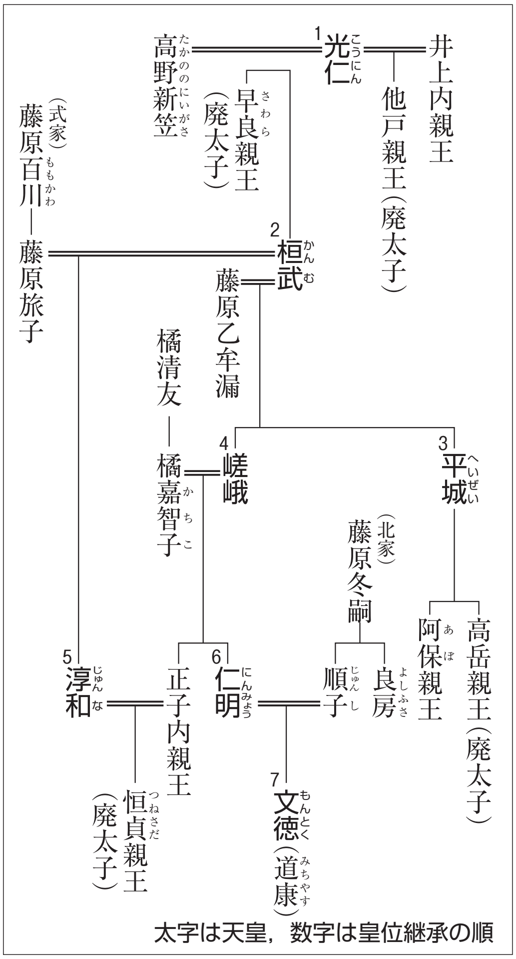
E　**養老令**(りょう)**の注釈書**⇒令の解釈を統一

あ　**令義解**(りょうのぎげ)**（官撰）**

833年，淳和(じゅんな)天皇が**清原夏野**(きよはらのなつの)らに編纂させる。

い　**令集解**(りょうのしゅうげ)**（私撰）**

９世紀後半，**惟宗直本**(これむねのなおもと)が令の注釈を私的(してき)に集める。



天皇家と藤原氏の関係系図(2)

２　弘仁・貞観文化（８世紀末～９世紀）

①弘仁・貞観文化の特色

A　平安京の皇族・貴族が中心の文化である。

B　**晩唐文化の影響が強い**が，国風化のめばえもみられる。

C　**紀伝道**・明経道**が重視され，宮廷を中心に漢文学が流行する。**

☆律令の正しい運用をめざしたため。

D　唐から新たにもち込まれた**密教の影響が強く，密教芸術が栄える。**

☆**官能的で暗く神秘的なイメージ。**

---

②平安仏教

A　奈良〔南都〕仏教との相違

あ　**信仰を中心とした一宗派の独立。**

い　理論・学問面中心主義（＝**顕教**）に対し，**密教**的傾向の強い**加持祈禱**などの実践面が中心となる。

☆公的な鎮護国家思想に加え，私的な日常の**現世利益**も強く求める。

う　山岳仏教の性格が強く，のちに山岳崇拝と結合し**修験道**の源流となる。

☆日本古来の山岳崇拝は，白鳳文化期の**役小角〔役行者〕**に始まる。

B　**天台宗**

あ　開祖

最澄〔伝教大師〕

☆近江国出身。804年，遣唐使に従い入唐，翌年帰国し桓武天皇の庇護を受ける。著書『**顕戒論**』『山家学生式』。

い　中心寺院

比叡山延暦寺（近江国）

う　教義

法華経を根本経典とする総合宗派として仏の前における絶対平等を説く。南都六宗からの独立をめざし，独自の大乗戒壇設立を主張，死の直後に認められる。

☆最澄の死後，入唐した弟子の**円仁〔慈覚大師〕**（現存最古の日記『**入唐求法巡礼行記**』の著者）と**円珍〔智証大師〕**により密教化（＝**台密**）し，教団の基礎が確立。

☆10世紀末，比叡山を下りた円珍の門流が**園城寺〔三井寺〕**に拠り，

山門派（**延暦寺の円仁派**）と**寺門派**（**園城寺の円珍派**）に分裂し対立を深めた。

C　**真言宗**

あ　開祖

空海〔**弘法大師**〕

☆讃岐国出身。804年，遣唐使に従い入唐，806年に帰国し嵯峨天皇の庇護を受け発展。著書『**三教指帰**』『十住心論』。

い　中心寺院

高野山金剛峰寺（**紀伊国**），**教王護国寺**〔**東寺**〕（**山城国，嵯峨天皇に賜る**）

う　教義

大日経・金剛頂経を根本経典とし，**加持祈禱**などの秘法により中心仏である**大日如来**と合一（＝即身成仏）できると説く。南都六宗と友好関係を保ち，現世利益的傾向が皇族・貴族の支持を受けて**密教**の流行をもたらした（＝**東密**）。

---

③神祇信仰の発達

A　御霊信仰の発生

非業の死を遂げた人物の霊（＝**怨霊**）をまつる**御霊会**が行われる。

☆神泉苑（早良親王を祀る初の御霊会が行われる），祇園社〔八坂神社〕，**北野天満宮**〔**北野神社**〕・大宰府天満宮（菅原道真を学問の神「天神」とする）など。

B　放生会の開始

捕獲しておいた虫・魚・動物などを山野河海に解き放ち自由にする。仏教の影響を受けて行われた。

---

④神仏習合の風潮⇒天平文化期以来

神宮寺の建築，神前読経の実施，寺院の境内に守護神を祀るなど，仏教と日本古来の神祇信仰との融合が進んだ。

---

⑤寺院建築

天台宗・真言宗はともに山岳仏教であったため，寺院は自然の地形に応じて**自由な伽藍(がらん)配置**をとった。

A　**室生寺金堂(むろうじこんどう)**　**（大和国）**

B　**室生寺五重塔**

☆わが国最小の五重塔。

---

⑥彫刻

頭部と胴体を一本の木で作る**一木造(いちぼくづくり)**が主流。衣文(えもん)は力強い**翻波式(ほんぱしき)**で，豊満(ほうまん)・神秘的な像が多い。

A　**室生寺金堂釈迦如来像**

B　**室生寺弥勒堂(みろくどう)釈迦如来坐(ざ)像**

C　**元興寺(がんごうじ)薬師如来像**　**（大和国）**

D　**神護寺(じんごじ)薬師如来像**　**（山城国）**

E　新薬師寺薬師如来像（大和国）

F　**法華寺十一面観音像（大和国）**

G　**観心寺如意輪観音像(かんしんじにょいりんかんのん)（河内国）**

H　**教王護国寺講堂不動明王(ふどうみょうおう)像**

I　**薬師寺僧形八幡神(そうぎょうはちまんしん)像**

☆神仏習合を示す好例。

J　薬師寺神功(じんぐう)皇后像

---

⑦絵画

A　**曼荼羅**⇒密教の金剛界と胎蔵界を図化した**両界曼荼羅**が隆盛

あ　**神護寺両界曼荼羅〔高雄曼荼羅〕**

い　**教王護国寺両界曼荼羅**

B　**不動明王像**⇒密教の中心仏である大日如来の化身

あ　**園城寺不動明王像〔黄不動〕（近江国）**

い　高野山明王院不動明王像〔赤不動〕

☆両方ともに円珍が描かせたものか？　国風文化期の青蓮院不動明王像〔青不動〕（山城国）とともに「三不動」と称される。

---

⑧書道

嵯峨天皇，**空海**，**橘逸勢**を唐風書道〔**唐様**〕の三名手として**三筆**とよぶ。

A　**風信帖**

☆空海が最澄にあてた手紙。

B　久隔帖

☆最澄が弟子の泰範にあてた手紙。

---

⑨文芸

上級貴族の教養として，漢文学・歴史学習（＝紀伝道）が流行。重要な出世の手段ともなった。

☆代表的漢詩作家は嵯峨天皇，空海，小野篁（おののたかむら），都良香（みやこのよしか），菅原道真ら。

A　**勅撰漢詩集**（ちょくせん）⇒文芸を中心に国家の隆盛をめざす（＝**文章経国**（もんじょうけいこく）思想）

あ　**凌雲集**（りょううんしゅう）　**（嵯峨天皇）**

い　**文華秀麗集**（ぶんかしゅうれいしゅう）**（嵯峨天皇）**

う　**経国集**（けいこくしゅう）　（淳和（じゅんな）天皇）

B　**漢詩集**

あ　**性霊集**（しょうりょうしゅう）　**（空海）**

い　**菅家文草**（かんけぶんそう）**（菅原道真）**

う　菅家後集（菅原道真）

C　漢詩論

文鏡秘府論（ぶんきょうひふろん）　**（空海）**

☆わが国最古の評論。

D　**説話集**

日本霊異記（にほんりょういき）　**（景戒）**（けいかい）

☆わが国最古の仏教説話集。

E　歴史書

あ　『続日本紀』（しょくにほんぎ）以下の「六国史」（りっこくし）が完成

い　**『類聚国史』**（るいじゅうこくし）**（菅原道真）**

☆「六国史」の記事を分類したもの。

F　**かな文字**の登場

９世紀に入り，万葉がなの草書体（**草がな**〔草体がな〕）を簡略化した**平がな**や，漢字の一部分を採（と）った**片かな**が用いられ始めた。

☆藤原有年（ありとし）申文（讃岐国司，867年）は，草がなから平がなへの変化を示す好例。

⑩教育

A　大学教育の発展

明経道・明法道・紀伝道・算道の四道が確立。**漢詩文の隆盛にともない紀伝道が中心教科となる。**

B　**大学別曹**

大学付属の寄宿舎兼図書館。一族専用で学費も支援された。

あ　**弘文院（和気氏）**

☆和気広世が設立。

い　**勧学院（藤原氏）**

☆**藤原冬嗣が設立**した最大の大学別曹。

う　**学館院（橘氏）**

☆嵯峨天皇の皇后である橘嘉智子〔檀林皇后〕が設立。

え　**奨学院（在原氏**や皇族）

☆在原行平が設立。

C　**庶民教育**

綜芸種智院（828年，**空海が設立**）

☆儒教・仏教・道教を教えたが，**空海の死後廃絶した。**

３　摂関政治

①藤原北家の台頭―摂関政治の開始―

A　**藤原北家発展**の要因

あ　**外戚政策**

娘を入内・出産させ，天皇の**外戚**〔母方の親戚，**外祖父**など〕となる。

い　**他氏排斥**

伴氏（もとの大伴氏）・橘氏・紀氏・菅原氏・醍醐源氏などを排斥。

☆さらに藤原北家内の「氏の長者」争いに突入。

う　**高位高官の独占と寄進地系荘園の集積**

摂政・関白は藤原北家が独占し（＝**摂関家**），荘園の寄進が集中。

☆摂関家の荘園群を**殿下渡領**という。

B　**藤原冬嗣**

810年　嵯峨天皇の蔵人頭に就任

☆のち娘の順子を仁明天皇に入内させ，皇室との姻戚関係を確立。

C　**藤原良房**（冬嗣の子）

842年　承和の変　（仁明天皇）

☆皇太子恒貞親王・**伴健岑**・**橘逸勢**を謀反の疑いありとして排斥。甥にあたる道康親王（のちの文徳天皇）を立太子。

857年　太政大臣に就任　（文徳天皇）

858年　事実上の摂政に就任（清和天皇）⇒臣下で初の人臣摂政。

☆文徳天皇に入内した娘明子が産んだ惟仁親王が９歳で即位。

866年　応天門の変　（清和天皇）

☆嵯峨源氏の**左大臣源信**を陥れるため大内裏の応天門に放火した**大納言伴善男**と紀氏らを排斥。

☆正式の摂政となる。

D　**藤原基経**（良房の養子）

884年　乱行が絶えない陽成天皇を廃位し初の**関白**に就任（**光孝天皇**）

887年～　阿衡の紛議〔阿衡事件〕（～888年）　（宇多天皇）

☆**基経の示威事件。宇多天皇が勅書を撤回**し橘広相が責を問われる。

☆基経は**正式の関白に就任**し政治的地位を確立した。

〈***Note***〉

②天皇の親政―摂関政治の中断―

A　**宇多天皇の親政**―寛平(かんぴょう)の治(ち)―

藤原基経死後，藤原氏と外戚関係のないことから摂政・関白を置かず親政を展開。

あ　文章博士(もんじょうはかせ)**菅原道真**を蔵人頭(くろうどのとう)に登用

い　滝口(たきぐち)の武士を設置

う　遣唐大使**菅原道真の建議により遣唐使を廃止（894年）**

え　醍醐(だいご)天皇への譲位(じょうい)時に『寛平御遺誡(かんぴょうのごゆいかい)』を遺(のこ)す

B　**醍醐天皇の親政―延喜(えんぎ)の治―**

☆左大臣藤原時平(ときひら)，右大臣菅原道真体制で親政を開始。

901年　**昌泰(しょうたい)の変**

☆菅原道真，藤原時平の讒言(ざんげん)により大宰権帥(だざいのごんのそち)に左遷(させん)される。

『日本三代実録』（「六国史」の最後）の完成

902年　**最終班田**

延喜の荘園整理令

905年　『古今(こきん)和歌集』の完成

907年　唐の滅亡

『**延喜格(きゃく)**』を編纂

914年　**三善清行(みよしのきよゆき)「意見封事十二箇条」**を奏上(そうじょう)

926年　契丹(きったん)〔遼(りょう)〕により渤海(ぼっかい)が滅亡

927年　『**延喜式(しき)**』を編纂

C　朱雀(すざく)天皇の政治

藤原忠平(ただひら)（時平の弟）により一時的に摂関政治が復活。

936年　高麗(こうらい)，新羅にかわり朝鮮半島を統一

939年　承平(じょうへい)・天慶(てんぎょう)の乱（～941年）

D　**村上天皇の親政―天暦(てんりゃく)の治―**

関白藤原忠平の死後は摂関を置かず，親政を展開。

958年　**乾元大宝(けんげんたいほう)（最後の本朝〔皇朝(こうちょう)〕十二銭）**の鋳造(ちゅうぞう)

③藤原北家の全盛―摂関政治の全盛―

969年　**安和の変**⇒藤原北家による**最後の他氏排斥事件**

☆**左大臣源高明（醍醐源氏）が，藤原北家と通じる源満仲（清和源氏）の讒言により，大宰権帥に左遷される。**

☆冷泉天皇の関白藤原実頼が新たに即位した円融天皇の摂政に就任。**以後ほぼ摂関常置体制となる。**

A　摂政・関白の独占

他氏排斥完了後，藤原北家内での「氏の長者」争いを展開。

☆兼通（兄）と**兼家（弟）**，道隆（兄）と道兼（弟），**道長（叔父）と伊周（甥）**の争いを経て，**藤原道長・頼通**父子の摂関政治全盛期へ。

B　**摂関の立場**

あ　**天皇の外戚**

摂関の条件。当時は**招婿婚〔婿入婚・妻問婚〕**の風習であり，男児も幼少時は妻の実家で養育された。

い　**天皇の政務を代行・補佐**

摂政（幼少時）・関白（成人後）は太政大臣や左大臣と兼任した。

う　**経済基盤**

律令官人としての収入の他に，**寄進地系荘園からの収入**があった。

☆**官吏の人事権を掌握**していたため成功による収入もあった。

C　政治の運営

あ　実情⇒律令の枠内で公私混同的政治を展開

重要政務は公卿が参加する内裏の「近衛の陣」における**陣定**で決定され，摂関家が天皇権威を代行・補佐。詔勅・宣旨・太政官符の他に，摂関家の下す政所下文・御教書なども政治的権力をもった。

☆**内政・外交ともに積極的政策はなく，先例・儀式が重視され，年中行事が発達した。**

☆**個人・一族の栄達に執着し，国政を軽視する傾向が強く**，貴族の責任感は著しく欠如していた。

い　結果

国政は形式的となり，国司に一任された地方政治は乱れ，武士団発生の要因となった。

D　**藤原道長〔御堂関白〕と頼通〔宇治関白・宇治殿〕の栄華**

995年　道長が一条天皇の内覧となる
☆左大臣にも昇進し，伊周・隆家との政争に勝利。

1000年　道長の娘**彰子が一条天皇の中宮となる**
☆中宮であった道隆の娘(伊周の妹)**定子**は，皇后として並立される。

1012年　道長の娘**妍子が三条天皇の中宮となる**

1016年　**道長が後一条天皇の摂政となる**
☆翌年，摂政を子の頼通に譲り太政大臣に昇進。

1018年　道長の娘**威子が後一条天皇の中宮となる**。
☆**一家三立后**を達成。のち嬉子も皇太子(のちの後朱雀天皇)の妃となる。

1019年　刀伊の入寇
☆大宰権帥藤原隆家(伊周の弟)が，地方武士を動員して撃退。

1020年　**道長が京都に法成寺〔無量寿院〕を建立**

1021年　道長が『**御堂関白記**』を完成

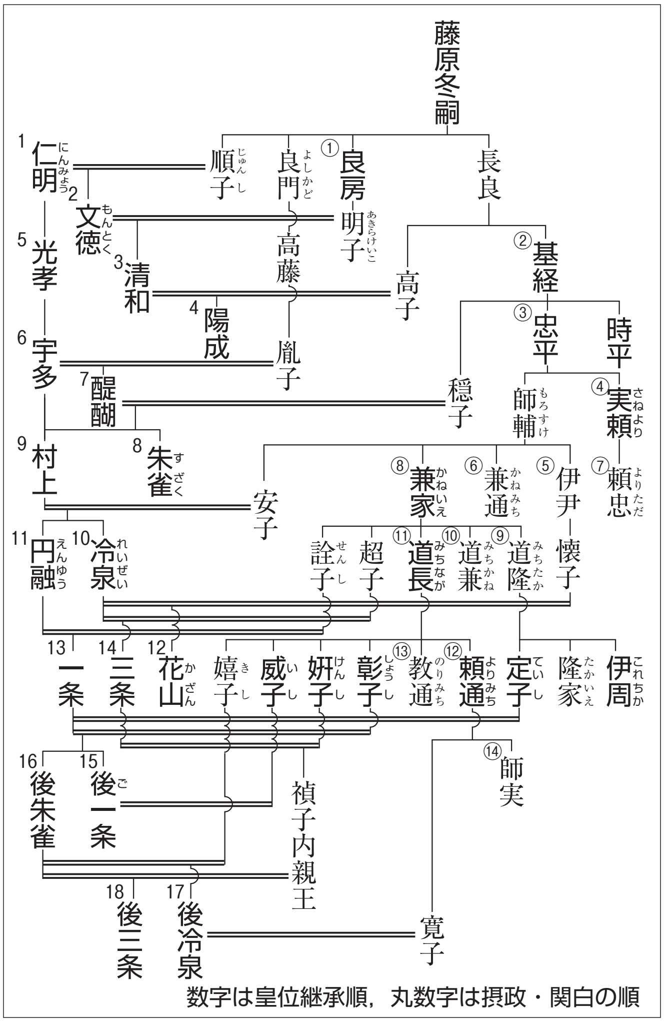
1028年　平忠常の乱(～31年)

1051年　前九年合戦(～62年)

1052年　末法の始まり

1053年　**頼通が宇治に平等院鳳凰堂を建立**

1068年　頼通が後冷泉天皇の関白を弟の教通に譲る



天皇家と藤原氏の関係系図(3)

４　東アジア情勢の変化―王朝の交代―

①中国

9世紀後半には，唐の商人が頻繁に来航するようになっていた。

894年　**菅原道真の建議により宇多天皇が遣唐使を廃止**

☆**唐の衰退，航海の危険，文化の十分な吸収，朝廷の財政難などが理由。**

907年　唐の滅亡

☆この後，五代十国の諸王朝が興亡。

960年　趙匡胤による**宋**の建国

979年　**宋〔北宋〕**の中国統一

☆日本は東アジアの動乱を避けるためもあり，**正式な国交を開かなかったが，宋船が博多に頻繁に来航し貿易は継続された。**日本人の渡航は禁止されていたが，10世紀末の奝然や11世紀半ばの成尋のように，巡礼を目的とする僧に関しては許されることがあった。

---

②朝鮮半島

8世紀末に新羅使の来日はなくなるが，新羅商人が来航するようになっていた。

935年　新羅の滅亡

936年　**高麗**が半島を統一

☆**日本と国交は開かれなかった**が，商人などの往来はあった。

---

③中国東北部とその周辺（沿海州など）

926年　**契丹〔遼〕**により渤海が滅亡

☆日本と国交は開かれなかったが，商人などの往来はあった。

1019年　渤海遺民の**女真族〔刀伊〕**が九州北部に来襲⇒**刀伊の入寇**

☆**大宰権帥藤原隆家**が率いる地方武士団の活躍で撃退。対外問題に対する中央政府の無力さが露呈した。

〈***Note***〉

5　国風〔藤原〕文化（10～11世紀）

①国風文化の特色

A　平安京の皇族・**摂関家**を中心とする高度な貴族文化。

B　**中国の文化を十分に吸収・消化したわが国独自の文化。**

☆日本人の人情・嗜好（しこう），日本の風土に合うように工夫された，優雅で洗練された文化。

C　**かな文字の発達を前提に国文学が発展**

D　政治の腐敗（ふはい）や社会不安の高まりの中で，**神仏習合**（しんぶつしゅうごう）**・末法思想**（まっぽうしそう）**・浄土教**（じょうどきょう）**が流行**し，芸術に多大な影響を与える。

---

②末法思想と浄土教

A　天台宗・真言宗の隆盛

現世利益（げんぜりやく）のための加持祈禱（かじきとう）が皇族・貴族の間で流行。

B　**神仏習合**（しんぶつしゅうごう）の進展

神は仏の仮（かり）の姿（＝権現（ごんげん））とする**本地垂迹説**（ほんじすいじゃくせつ）が流行。

C　**浄土教〔浄土信仰**（しんこう）**〕**の隆盛

あ　思想

阿弥陀如来（あみだにょらい）に対する信仰。**念仏「南無阿弥陀仏」**（なむあみだぶつ）**を唱**（とな）**え，来世において極楽浄土**（ごくらくじょうど）**に往生することを願う。**

い　背景

社会不安の増大（盗賊・戦乱・災厄など），寺院の世俗化（せぞくか）（荘園の集積など），**末法思想の流行。**

☆**末法思想**＝釈迦入滅（にゅうめつ）後，1000年ずつの正法（しょうぼう）・像法（ぞうぼう）を経て**1052〔永承**（えいしょう）**7〕年から末法に突入**すると考えられた。

D　布教

あ　**空也**（くうや）**〔市聖**（いちのひじり）**〕**　（10世紀半ば）

諸国を巡歴後，**京**（みやこ）**で一般民衆に布教。**西光寺（さいこうじ）（のちの**六波羅蜜寺**（ろくはらみつじ））を創建。

い　**源信**（げんしん）**〔恵心僧都**（えしんそうず）**〕**（10世紀後半）

985年に『**往生要集**（おうじょうようしゅう）』を著す。上流貴族への浄土教普及を促（うなが）し，もち込まれた宋でも高い評価を得た。

う　**往生伝**（念仏の功徳（くどく）で往生した人々の伝記集）の執筆

『日本往生極楽記』(慶滋保胤)，「拾遺往生伝」(三善為康)など

え　**経塚**の流行

経典を書写し，経筒におさめ地中に埋める。藤原道長が法華経を埋納した金峰山経塚などが有名。

---

③仏教美術

A　建築

あ　**醍醐寺五重塔**

い　法成寺〔無量寿院〕阿弥陀堂

☆藤原道長〔御堂関白〕が建立，焼失により現存せず。

う　**平等院鳳凰堂**

☆**藤原頼通〔宇治関白〕が建立**(1053年完成)，浄土庭園も有名。

え　**法界寺阿弥陀堂**

☆日野資業が建立。

お　浄瑠璃寺九体阿弥陀堂

☆院政期の説もあり。

B　彫刻

仏所において**寄木造**で阿弥陀如来像を大量生産し，浄土教流行の需要に応えた。

あ　**平等院鳳凰堂阿弥陀如来像**

☆仏師の**定朝**が制作。周囲に多数の雲中供養菩薩像を従える。

い　**法界寺阿弥陀如来像**

う　浄瑠璃寺九体阿弥陀仏

C　絵画

往生する人を迎えるため阿弥陀仏が来臨する場面を描く**来迎図**の制作が流行。

あ　**高野山聖衆来迎図**(紀伊国)

い　**平等院鳳凰堂扉絵**

う　青蓮院不動明王像〔青不動〕

---

④国風美術

A　建築

貴族の邸宅として，白木造・檜皮葺で開放的な**寝殿造**が発達。

☆**寝殿**・対屋・渡殿・廊・釣殿からなり，庭園には遣水・池・中島があった。室内は屏風・襖〔障子〕などで簡単に仕切られ，床は板敷きで畳や円座を敷いて座った。

☆摂関家の邸宅である東三条殿などが有名だが，現存する寝殿造はない。

B　絵画

従来の唐絵とともに，日本の風物を題材としてなだらかな線と上品な彩色をもつ**大和絵**が発達。

☆**巨勢金岡**らが活躍。

C　書道

前代の唐様に対し**和様**が発達。**小野道風**(『**屏風土代**』「秋萩帖」)・**藤原佐理**(『**離洛帖**』)・**藤原行成**(世尊寺流の祖，『**白氏詩巻**』)の３名手を**三跡**〔**三蹟**〕という。

D　工芸

蒔絵(＝漆で文様を描き，金銀粉を蒔きつけて漆器の模様とする)や**螺鈿**(＝貝殻の真珠光部分を薄片にして漆器に埋め込む)などの技法が発達。

☆輸出品としても珍重された。

---

⑤国文学の発達

A　**かな文字の発達**

日本人特有の内面的感情・感覚の表現が可能となり，国文学の隆盛をもたらす。

B　詩歌(しいか)⇒和歌が漢詩と並ぶ地位を確立

あ　**古今(こきん)和歌集**（905年，**醍醐天皇**）

万葉集以降〜当代(とうだい)の約1100首を20巻に収める**初の勅撰(ちょくせん)和歌集**で，**八代集(はちだいしゅう)のはじめ**。繊細(せんさい)で技巧的(ぎこうてき)な**古今調**〔たをやめぶり〕。**紀貫之(きのつらゆき)**・紀友則(きのとものり)・凡河内躬恒(おおしこうちのみつね)・壬生忠岑(みぶのただみね)が編纂。紀貫之の**仮名序(かなじょ)**はわが国最古の歌論。

☆**八代集(はちだいしゅう)**⇒古今・後撰(ごせん)・拾遺(しゅうい)・後拾遺(ごしゅうい)・金葉(きんよう)・詞花(しか)・千載(せんざい)・新古今(しんこきん)

い　**和漢朗詠(ろうえい)集**

藤原公任(きんとう)が編纂した，朗詠に適した和漢の詩歌集。

う　本朝文粋(ほんちょうもんずい)

『明衡往来(めいごうおうらい)』（最古の往来物）の著者でもある藤原明衡(あきひら)が編纂した漢詩集。

C　物語

あ　９世紀末〜10世紀前半

竹取物語　（伝奇物語）

☆かぐや姫を主人公とする**最古の物語**。

伊勢物語　（歌物語）

☆在原業平(ありわらのなりひら)を主人公とする**最古の歌物語**。

い　10世紀後半

宇津保(うつほ)物語（伝奇物語）

☆竹取物語⇒源氏物語への過渡的(かとてき)な存在。

落窪(おちくぼ)物語　（伝奇物語）

☆継子(ままこ)物語の先駆(せんく)。

う　11世紀初め

源氏物語（**紫式部**，全54帖(じょう)）

☆前編は**光源氏(ひかるげんじ)**，後編の宇治十帖(うじじゅうじょう)はその子薫大将(かおるたいしょう)を主人公とする物語文学の最高峰(さいこうほう)。**国際的評価も極めて高い。**

栄華(えいが)物語（赤染衛門(あかぞめえもん)ら）

☆藤原氏全盛期を**賞賛的(しょうさんてき)に**，**編年体で描く**歴史物語。

D　日記文学

あ　10世紀

土佐日記　　（紀貫之）

☆女性に仮託して書かれた**最古のかな日記**

蜻蛉日記　　（藤原道綱の母）

☆一夫多妻制の貴族社会における女性の苦悩を描く**最古の女流日記**。

い　11世紀前半

和泉式部日記（和泉式部）

紫式部日記　（紫式部）

☆紫式部は一条天皇の中宮である彰子〔上東門院〕**に仕えた。**

う　11世紀半ば

更級日記　　（菅原孝標の女）

E　随筆

枕草子　　　　　（清少納言）⇒最古の随筆

☆清少納言は一条天皇の中宮（のち皇后）である定子に仕えた。

F　百科事典

倭名類聚抄〔倭名抄〕（源 順）⇒最古の百科事典

⑥貴族の生活

A　社会生活

あ　通過儀礼

10～15歳くらいで男子は**元服**(げんぷく)，女子は**裳着**(もぎ)の式をあげて，成人として扱われた。その後，男子は官職を得て朝廷に出仕した。

い　**年中行事**の発達

政治は先例に従って行われるようになり，先例や儀式に精通することが貴族の教養とされたので，日記や儀式書がさかんに著された。

☆上流貴族の日記⇒**『御堂関白記』(藤原道長)**，
　　　　　　　　『小右記』(しょうゆうき)**(藤原実資**(さねすけ)**)**など

☆儀式書　　　　⇒『西宮記』(さいきゅうき)(源高明(たかあきら))，『江家次第』(ごうけしだい)(大江匡房(おおえのまさふさ))など

う　おもな年中行事

睦月(むつき)　（１月)⇒朝賀(ちょうが)，叙位(じょい)，**県召除目**(あがためしのじもく)など
弥生(やよい)　（３月)⇒曲水宴(ごくすいのえん)
卯月(うづき)　（４月)⇒灌仏会(かんぶつえ)，**賀茂祭**(かものまつり)〔**葵祭**(あおいまつり)〕など
水無月(みなづき)(６月)⇒大祓(おおはらえ)〔水無月祓(みなづきばらえ)〕など
文月(ふみづき)　（７月)⇒七夕(たなばた)，盂蘭盆会(うらぼんえ)，相撲節(すまいのせち)など
葉月(はづき)　（８月)⇒司召除目(つかさめしのじもく)など
師走(しわす)　(12月)⇒追儺(ついな)，大祓(おおはらえ)〔年越祓(としこしばらえ)〕など

え　生活範囲

石山寺(いしやまでら)(近江国)や長谷寺(はせでら)(大和国)などに参詣(さんけい)する他は，ほとんど京(みやこ)を離れることなく一生を終えた。

B　日常生活

あ　衣

貴族の正装⇒男性は束帯(そくたい)・衣冠(いかん)，女性は女房装束(にょうぼうしょうぞく)〔十二単(じゅうにひとえ)〕。

貴族の常服⇒男性は直衣(のうし)・狩衣(かりぎぬ)，女性は小袿(こうちき)に袴(はかま)を着用。

武士・庶民⇒直垂(ひたたれ)・水干(すいかん)など。

い　食

強飯(こわいい)と乾物(かんぶつ)を中心に，**朝夕の２食**。荘園からの徴収品(ちょうしゅうひん)などで，貴族の食事は多種多様になった。庶民の食事は比較的簡素で，１日３回とることもあった。

う　住

貴族の多くは左京(さきょう)の寝殿造の屋敷に居住。

☆京(みやこ)の民衆は掘立柱住居，地方には竪穴住居に住む者もいた。

え　婚姻(こんいん)

結婚した男性が妻の家に入る招婿婚(しょうせいこん)〔婿入婚(むこいりこん)・妻問婚(つまどいこん)〕が一般化。**母方の縁(えん)（＝外戚(がいせき)関係）が重視されるが，女性の地位は不安定であった。**

お　娯楽(ごらく)

碁(ご)・双六(すごろく)や歌合(うたあわせ)・貝合(かいあわせ)・闘鶏(とうけい)，**蹴鞠(けまり)**，放鷹(ほうよう)など多数の娯楽が存在した。

C　精神生活

運命や吉凶を気にかけ，祈禱(きとう)により災厄を避けて福を招くことにつとめた。

あ　**陰陽五行説(いんようごぎょうせつ)**にもとづく**陰陽道(おんみょうどう)**の影響で迷信(めいしん)が流行。生活は**具注暦(ぐちゅうれき)**に縛(しば)られ，**物忌(ものいみ)**と称し引きこもり慎(つつし)んだり，凶の方角を避け**方違(かたたがえ)**を行ったりした。

い　現世で栄達富貴(えいたつふうき)が得られない場合の失望や現実逃避(とうひ)により，極楽浄土への往生を求め**浄土教**が**流行(りゅうこう)**。

〈 ***Note*** 〉

第５講　確認テスト

1　785年に長岡京で殺害された藤原式家の人物とは？

①藤原百川　②藤原種継　③藤原緒嗣　④藤原仲成

2　坂上田村麻呂の征討により帰順した蝦夷の族長とは？

①阿倍比羅夫　②伊治呰麻呂　③阿弖流為　④安倍頼時

3　嵯峨天皇が設置した，平安京内の警察にあたる令外官とは？

①勘解由使　②蔵人　③検非違使　④追捕使

4　弘仁・貞観・延喜の「三代格式」編纂とは無関係の天皇とは？

①嵯峨天皇　②清和天皇　③醍醐天皇　④村上天皇

5　858年，清和天皇の事実上の摂政となった人物とは？

①藤原冬嗣　②藤原良房　③藤原基経　④藤原忠平

6　894年，菅原道真の建言で遣唐使を廃止した天皇とは？

①宇多天皇　②醍醐天皇　③朱雀天皇　④村上天皇

7　969年の安和の変後，円融天皇の摂政となった人物とは？

①藤原実頼　②藤原兼家　③藤原道隆　④藤原道長

8　摂関政治全盛期の経済基盤としてふさわしくないものを一つ選べ。

①位田・職田　②殿下渡領（＝摂関家の寄進地系荘園）
③成功　④知行国

9　次のうち，死後に園城寺〔三井寺〕と最も関係が深い僧を選べ。

①最澄〔伝教大師〕　②空海〔弘法大師〕
③円仁〔慈覚大師〕　④円珍〔智証大師〕

10　平安時代前期（弘仁・貞観文化）の仏像としてふさわしくないものを一つ選べ。

①元興寺薬師如来像　②法華寺十一面観音像
③観心寺如意輪観音像　④法界寺阿弥陀如来像

11　次のうち，「三筆」ではなく「三跡〔三蹟〕」に属する書家とは？

①嵯峨天皇　②空海　③橘逸勢　④小野道風

12　最古の女流日記とは？

①土佐日記　②蜻蛉日記　③和泉式部日記　④更級日記

解答

1	②	2	③	3	③	4	④	5	②
6	①	7	①	8	④	9	④	10	④
11	④	12	②						